

第48回 医学教育セミナーとワークショップ in 京都大学

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第48回医学教育セミナーとワークショップは、京都大学医学教育推進センターと共同開催いたしますので奮ってご参加下さい。

京都大学 医学教育推進センター 小西靖彦
岐阜大学 医学教育開発研究センター 鈴木康之

日程 2013年6月8日(土)～9日(日)

会場 京都大学百周年時計台記念館

2013
春

- WS-1 質的研究の手法を用いた医学教育研究・臨床研究
- WS-2 医療プロフェッショナリズム教育：理論・原則と実践
- WS-3 患者の語り（ナラティブ）で医学教育が変わる
- WS-4 マイクロティーチング～教員・指導医FD及びOSTEへの活用
- WS-5 ストラテジーとしてのSDL（自己主導型学習）-入門編
- WS-6 アクションリサーチをデザインする
- Seminar 「三項関係ナラティブ支援モデル」による医師と患者の教育
講師：やまだようこ（立命館大学・衣笠総合研究機構）

プログラム日程						
6月8日 (土)	AM	WS-1				
	PM	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4	
	夕	Seminar				
	夜	懇親会				
6月9日 (日)	AM	WS-1	WS-2	WS-3	WS-5	WS-6

Seminar 「三項関係ナラティブ支援モデル」による医師と患者の教育

講師: やまだようこ(立命館大学・衣笠総合研究機構)

日時: 2013年6月8日(土)17:30~18:30

概要: 従来の医療では、医師も患者も孤立し、それぞれが苦闘してきた。経験者と新参者のコミュニケーションも十分ではない。医療をよくするには、医師も患者も、共に支援・教育していくシステムが必要であろう。「三項関係」とは、人と人のあいだをむすぶ媒介機能<メディエーター(媒介者)やミーディアム(媒介物)>を重視する関係論である。医師と患者の「治療的三項関係」、経験医師と新参医師の「医師教育三項関係」、経験患者と新参患者の「患者教育三項関係」など、多重の教育機能をもつ。本セミナーでは、医療・教育現場で役立つ三項関係ナラティブ支援モデルを提案し、ビジュアル・ナラティブを用いた媒介ツールを考えてみたい。

WS-1 質的研究の手法を用いた医学教育研究・臨床研究

企画: 大谷 尚(名古屋大学)、錦織 宏(京都大学)、青松棟吉(名古屋大学)

日時: 2013年6月8日(土)9:15~17:00、9日(日)9:00~13:00

概要: 医学教育研究において質的研究は量的研究とともに研究手法の両輪をなすものですが、近年、臨床研究の実施にあたって質的研究に対して関心が高まってきています。本ワークショップでは、医学教育研究・臨床研究における質的研究の位置づけや医学研究との科学哲学の相違などについて概説した後、大谷氏が開発した SCAT (Steps for Coding and Theorization) の手法を用いて、実際に質的データの分析に取り組みます。質的研究の全体像を俯瞰し、分析を体験します。

対象: 質的研究について関心があるがあまり知らない方

定員: 30名

WS-2 医療プロフェッショナリズム教育: 理論・原則と実践

企画: 日本医学教育学会・倫理プロフェッショナリズム委員会(委員長 後藤英司)

日時: 2013年6月8日(土)13:00~17:00、9日(日)9:00~13:00

概要: 卒前・卒後教育に少しずつプロフェッショナリズム教育が導入されるようになってきており、それぞれの施設での取り組みが蓄積されつつあります。本ワークショップでは、各施設での取り組みの実際を共有するとともに、日本医学教育学会・倫理・プロフェッショナリズム委員会で行ってきたプロフェッショナリズム教育の内容(講義、ケースディスカッション、ナラティブ・メディスン、ビデオクリップを用いたディスカッション、P-Mexによる評価の実際、等)を紹介し、効果的なプロフェッショナリズム教育の方略、評価について具体的に立案していこうと思います。参加者の皆さんからのプレゼンテーションもぜひよろしくお願いいたします。

対象: ①プロフェッショナリズム教育に関心のある教員、指導医、研修医、学生
②プロフェッショナリズム教育を実際に行っている方(自身の取り組みをご紹介いただける方はご連絡ください)
(*医学生、医師のプロフェッショナリズム教育に絞って議論しますが、他の医療専門職関係者の参加も歓迎いたします)

定員: 60名

WS-3 患者の語り(ナラティブ)で医学教育が変わる

企画: 中山健夫(京都大学)、隈本邦彦(江戸川大学)、後藤恵子(東京理科大学)
別府宏園、射場典子、佐藤(佐久間)りか(NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン)

日時: 2013年6月8日(土)13:00~17:00、9日(日)9:00~13:00

概要: 英国Oxford大学で始まった Database of Individual Patient Experiences (DIPEX) は、質的研究の方法を用いて疾患・医療経験ごとに約50人の患者の語りを集め、トピック別に整理し、インターネット上で公開したものである。日本でも英国DIPEXをモデルに、「乳がんの語り」と「前立腺がんの語り」を作成し、2009年より100人近い患者の体験談をDIPEX-Japanのウェブサイト公開している(<http://www.dipex-j.org/>)。このサイトは患者・家族への情報提供だけではなく、医療系大学における学生教育にも活用されはじめています。患者中心の医療への動きが高まっている今、患者の語り(ナラティブ)が医学教育において果たす役割は大きい。このワークショップでは、初日はDIPEXの方法論を含めた概要を紹介するとともに実際に患者の語りを用いた模擬授業を行い、2日目はEBM・NBMTと医学教育についての問題提起を行い、それを踏まえてどのように医学教育の中に患者の語り(ナラティブ)を位置づけ、教材として活用できるか、グループディスカッションを通じて検討する。

対象: 医学教育にナラティブを活用している、または活用したいと思っている人
医療系の教育に携わっていてナラティブに関心のある人
主として教員・医療職を対象としていますが、上記に関心のある学生の参加も可です。

定員: 60名

WS-4 マイクロティーチング ～ 教員・指導医FD及びOSTEへの活用

企画： 山脇正永(京都府立医科大学)

日時： 2013年6月8日(土)13:00～17:00

概要： マイクロティーチングとはミニレクチャー・講義等の技術向上のための練習方法で、自分の指導(講義)状況を客観的に分析しようというものです。今回は学生・研修医に対する臨床場面での教育・指導を想定し、5-6名のグループごとに行います。参加者はあらかじめ5分以内の指導内容(ミニレクチャー、回診、手技指導、フィードバックなど)を用意していただきます(テーマは全く自由です)。各参加者の指導場面をビデオ撮影し、自己分析、グループ内でのディスカッションを行い、最後のまとめのセッションでは、OSTE (Objective Structured Teaching Examination) で使用される客観的評価方法についても解説します。

対象： 教員、指導医など、学生・研修医を指導している方を対象としますが、学生も事前準備があれば参加可能です。指導内容はミニレクチャー、回診、手技指導、フィードバックなどの臨床場面を想定していますが、講義でも結構です。

定員： 12名

WS-5 ストラテジーとしてのSDL (自己主導型学習) -入門編

企画： 渡邊洋子、柴原真知子(京都大学)、岡田彩子(兵庫県立大学)、米岡裕美(埼玉医科大学)
佐伯知子(大阪総合保育大学)

日時： 2013年6月9日(日) 9:15～13:00

概要： Self-Directed Learning (SDL) は、アメリカの成人教育研究者Malcom Knowlesが成人学習者の特徴を踏まえて提起した学習モデルです。今後のアウトカム基盤型の教育では、学生や研修医、指導者自身が能動的に学び続ける力が一層重要になります。本WSでは、「SDLを個々の教育現場でストラテジーとしてどう活かすか」の観点にたち、2つの柱で、実践的な理解と適用を目指します。①SDLの学習プロセスを体験し、振り返りやディスカッションを通して、実際に理解する。②参加者の医学・医療者教育の現場でSDLをいかに活用できるかを探究する。テキスト：ノールズ『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめー』渡邊洋子監訳、明石書店、2005。

対象： 卒前・卒後医学教育および医療者教育の教員

定員： 20名

WS-6 アクションリサーチをデザインする

企画： 錦織 宏、小西靖彦(京都大学)

日時： 2013年6月9日(日)9:15～13:00

概要： アクションリサーチは研究者参加型の研究手法の一つで、医学/医療者教育研究にとどまらず、広く社会医学(科学)研究に利用することができる。質的・量的研究の手法を応用し、経験知を理論化していくこのアクションリサーチでは、研究と実践のギャップを埋めることも期待される。本ワークショップではまずアクションリサーチの概要を紹介する。その後、事前に簡単に準備してきていただいた参加者の実践内容やアイデアを、グループ討論や全体討論を通して、アクションリサーチにデザインしていく。

対象： 研究者参加型のリサーチに関心のある方

定員： 20名



参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。

「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2013年5月26日（日）

ホームページからお申し込みできない方は、FAX(058-230-6468)でご連絡ください。
会場の都合で、各ワークショップに定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承下さい。

参加費： 2,000円（資料代）学部学生無料

懇親会費： 別途徴収いたします

受付時に徴収いたします。
資料代は、資料作成ならびに報告書「新しい医学教育の流れ」の作成の一部に使用いたします。
参加者には後日、報告書を送付いたします。（学部学生は報告書の送付は含まれません）

会場： 京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）

地下鉄烏丸線今出川駅下車（出口3番）、京都市バス201系統（百万遍・祇園ゆき）烏丸今出川乗車
京大正門前下車。
今出川駅～京都大学は約3kmです。
（京都駅前発の市バス206系統は混雑・渋滞しますのでご注意下さい）

